

科目名	授業形態	単位数	担当教員名
保育内容・環境 I	演習	I 単位	阪上節子
<p>【授業のテーマ及び到達目標】</p> <p>領域「環境」のねらいと内容について学習し、幼児に「科学的・知的好奇心的なものの見方や考え方」素地を形成させることのできる知識・技術の修得を目指す。保育現場で実践して行く為に自然や事象の中から幼児の興味・関心を引き出すことのできる素材を見つけ、「科学的・知的好奇心的なものの見方や考え方」を育成するための援助・指導法を中心テーマとする。幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容、領域「環境」の具体的な指導方法、「科学的なもの見方や考え方」を幼児期から習得することの意義や他領域との総合的保育活動としての実践を取り上げる。</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>幼稚園教育要領「環境」のねらいを保育現場で実践していくために必要とされる、「保育者としての感性の育成」に重点を置き、保育者自身が幼児にとって最大の環境であることを学ぶ。学生自身の原体験を各自が再認識し、幼児に自然と積極的に触れ合う場を提供できる知識・技術の習得とともに、他領域と併せた総合的保育活動へ発展させていくことができるよう、様々な教材開発を行っていく。</p>			
<p>【全体の授業計画・内容】</p>			
<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>領域「環境」のねらいと目的を知る「環境」とは何かを学ぶ。</p> <p>事前学修課題: 幼稚園教育要領、保育所保育指針 領域「環境」のねらいと内容熟読【0.5 時間】</p> <p>事後学修課題: 配布された資料を各自でまとめ理解する【0.5 時間】</p>			
<p>第 2 回 環境を通して行う教育・保育の基本 自身の原体験を振り返る。</p> <p>事前学修課題: PP24～28 幼児期からの自身の自然体験を思い起こし、まとめておく【0.5 時間】</p> <p>事後学修課題: 配布された資料を各自でまとめ理解する【0.5 時間】</p>			
<p>第 3 回 平成29年告知の新要領・新指針改定がなぜなされたか。</p> <p>事前学修課題: PP34～35 幼稚園教育要領、保育所保育指針 領域「環境」を熟読する【0.5 時間】</p> <p>事後学修課題: 授業のまとめ理解【0.5 時間】</p>			
<p>第 4 回 総合的な活動の場としての環境の捉え方を学ぶ。 人的環境、物的環境</p> <p>事前学修課題: PP73～79 幼児期に自身が体験した環境をまとめておく【1.00 時間】</p> <p>事後学修課題: 授業のまとめ理解【0.5 時間】</p>			
<p>第 5 回 教育・保育思想と領域「環境」と考え方を学ぶ。</p> <p>事前学修課題: 事前課題の教育思想史について調べまとめておく【0.5 時間】</p> <p>事後学修課題: DVD を見て保育者に求められる資質とは何か、教育思想史から考えをまとめる【1.00 時間】</p>			
<p>第 6 回 自然に関わる力はなぜ必要なのか。自然を取り入れて遊ぶ。 春①</p> <p>事前学修課題: PP104～106 自然と関連した記事を読む【0.5 時間】</p> <p>事後学修課題: 授業のまとめ理解【0.5 時間】</p>			
<p>第 8 回 他領域との関わりを大切にして教材開発を行う。 春③（題材：チョウ）</p> <p>事前学修課題: PP37～38 チョウについて調べておく【1.00 時間】</p> <p>事後学修課題: 授業のまとめ理解【0.5 時間】</p>			
<p>第 9 回 身近な小動物への子どもの興味・関心をたかめるために。</p> <p>事前学修課題: PP116～118 身近な小動物について調べまとめておく【0.5 時間】</p> <p>事後学修課題: 授業のまとめ理解【0.5 時間】</p>			

<p>第 10回 身近な小動物への子どもの興味・関心を大切にして保育活動を行うことを学ぶ。</p> <p>事前学修課題:関係した記事を読む【0.5 時間】</p> <p>事後学修課題:授業のまとめ理解 【0.5 時間】</p>
<p>第 11回 身近な植物への興味・関心を大切にして保育活動を行う。(題材 : タンポポ)</p> <p>事前学修課題:配布した資料 たんぽぽの生息地、種類を見つけておく【1.00 時間】</p> <p>事後学修課題:授業のまとめ理解 【0.5 時間】</p>
<p>第 12回 身近な植物への興味・関心を大切にして保育活動を行う。(題材 : 野草)</p> <p>事前学修課題: 身近な野草探してくる【1.00 時間】</p> <p>事後学修課題:授業のまとめ理解 【0.5 時間】</p>
<p>第 13回 自然の不思議さを遊びに発展させる。(題材 : 「どんぐりを使った遊び」)</p> <p>事前学修課題:教材開発をしておく 【1.00 時間】</p> <p>事後学修課題:授業のまとめ理解 【0.5 時間】</p>
<p>第 14回 領域環境と理科教育分野の幼小接続。(題材 : 転がるものの特徴や量等)</p> <p>事前学修課題:PP142~146 小学一年生の理科の配布物を読んでおく【1.00 時間】</p> <p>事後学修課題:授業のまとめ理解 【0.5 時間】</p>
<p>第 15回 試験及びまとめ</p>
<p>【学習のあり方】</p> <p>子ども自らが環境との関わりを学んでいけるための保育環境の大切な学びや、保育者の役割について講義する。環境を取り入れた生活や遊びをグループに分れて行う。</p>
<p>【成績評価】</p> <p>1.提出物・小テスト、50% 2.定期試験の総合評価 50%</p>
<p>【課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法】</p> <p>レポート提出や小テストにコメントを記入し返却する。</p>
<p>【テキスト】</p> <p>近藤幹生監修 『保育内容 環境』 徳安敦、瀧川光治、杉浦広幸、青踏社</p>
<p>【参考文献】</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書、保育所保育指針解説書 (フレーベル館)</p>
<p>【実務経験の有無】 有</p> <p>保育現場で環境を通しての保育を実践し、総合的保育活動へと発展させる保育内容で幼児教育を実施してきた。また他大学において、環境 I の授業を担当している。授業では、実際の保育現場の子どもの姿や保育者の関わり方等の映像を見る。また、学生が直接体験をすることで、実践と理論が融合でき、確かな学びに繋がっている。保育内容「環境」は保育現場に出た時を想定し、即戦力として保育に役に立つ授業内容にしている。</p>